

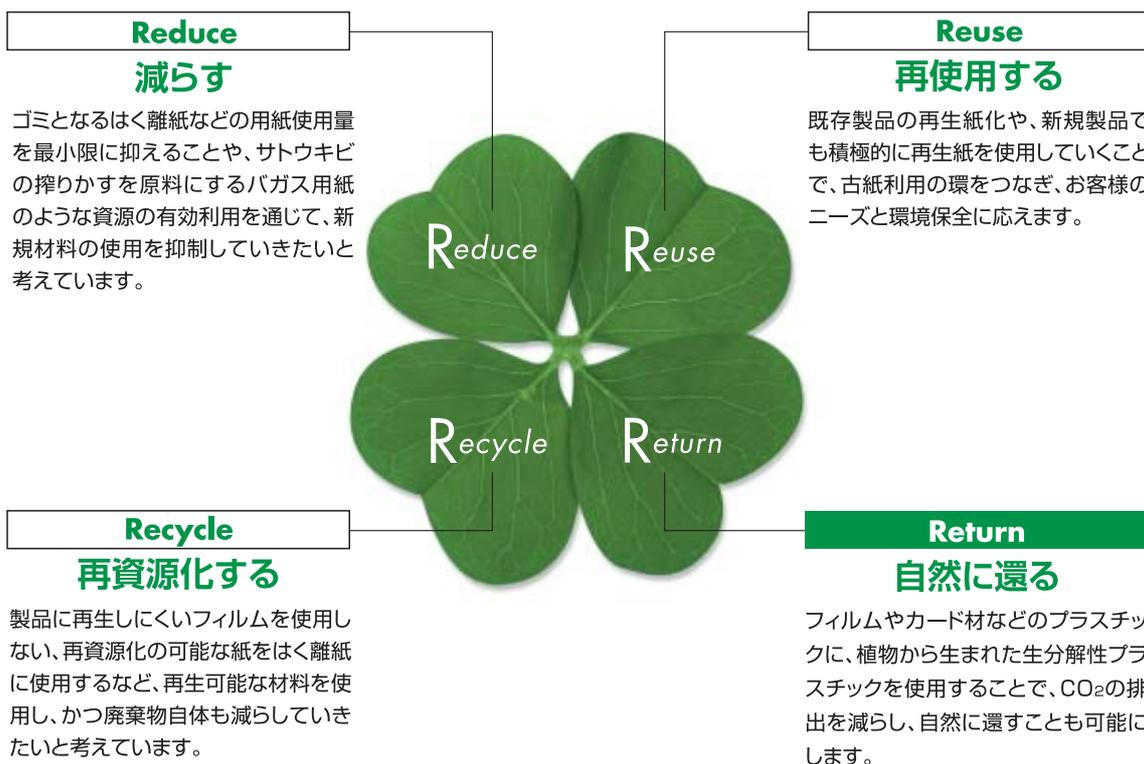


Environmental Report 2009

TOPPAN FORMS

トッパンフォームズの製品開発は「4R」がキーワードです

地球環境を守るキーワードは「3R(Reduce=減らす、Reuse=再使用する、Recycle=再資源化する)」です。
トッパンフォームズでは、3RにReturn(還る)を加えた「4R」の実践に取り組んでいます。



C O N T E N T S

ご挨拶	1
Corporate file	2
環境方針	4
環境マネジメント	5
環境目標	8
マテリアルバランスと環境影響	10
環境に配慮した製品・サービス	11
研究・開発	16
建物・施設	17
環境パフォーマンス	18
グリーン調達・購入	21
環境コミュニケーション	22
コンプライアンス.....	24

見やすさへの配慮

できる限り多くの方が見やすいように、一部をユニバーサルデザインに配慮して作成しています。

発行年月

2009年9月

報告対象範囲(集計範囲)2008年度

一部期間外の情報を含みます。

トッパン・フォームズ株式会社

本社ビル

中央研究所

生産事業所:日野工場、福生工場、川本工場、

TFCP製造部、八戸工場、新潟工場、

辰巳工場(第一センター、第二センター)、

EPSセンター

関係会社(国内のみ)

トッパン・フォームズ東海株式会社(TFT)

トッパン・フォームズ関西株式会社(TFK)

トッパン・フォームズ西日本株式会社(TFN)

トッパン・フォームプロセス株式会社(TFP)

トッパン・フォームズ・サービス株式会社(TFS)

北海道トッパン・フォームズ株式会社

山陽トッパン・フォームズ株式会社

香川ビジネスフォーム株式会社

沖縄ビジネスフォーム株式会社

株式会社KCF

本文中の「生産事業所」は、上記の生産事業所と中央研究所、関係会社の生産事業所を含む。また「事業所」は、生産事業所と事務所を含む。

ご挨拶



当社は、ビジネスフォームやデータ・プリント・サービスなどの紙媒体とICやRFIDなどの電子媒体の供給を通して、時代のニーズを先取りした総合的な情報管理サービスを提供してきました。そして、情報活用に最適なソリューションをご提供する「Information Solution Company」として、お客様とともに持続可能な発展を目指しています。

企業が持続可能な発展を遂げるには、売上や利益を確保するための前提として、社会的責任を果たし、信頼される企業であることが重要です。特に環境問題への対応は、当社ばかりでなく、当社のお客様にとっても重要な経営課題の一つとして位置づけられるようになってきました。

当社は、経営方針の一つとして経営基盤の強化を掲げ、環境経営の実現を目指しています。事業所ごとに環境マネジメントシステムを構築し、省エネルギー、廃棄物削減などの環境負荷低減に計画的に取り組んでいます。2008年度は、トッパン・フォームズ関西(株)が事業所ごとに取得していたISO 14001の認証を一つに統合しました。また、すべての生産事業所において、社内環境監査を実施して、環境目標の達成状況、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。環境保全活動の推進にあたっては、それぞれの活動分野で中期目標と単年度ごとの目標を設定し、その達成に向けてグループ全体で努力しています。さらに、製品の開発においては、環境のキーワードとして「4R (Reduce、Reuse、Recycle、Return) を掲げ、環境にやさしい素材開発や機能研究を行っています。

企業の社会的責任は、環境問題への対応だけではなく、製品の品質保証や情報セキュリティの確保など多岐にわたります。その中でも特にコンプライアンスは、社会から信頼される企業であるための重要な要素です。当社は、2007年に「トッパンフォームズグループ全社行動指針」を定め、法令の遵守だけでなく、社会の一員として誠実に行動し、公正で適正な経営を実現するため、従業員への浸透を図っています。

これからも様々な活動を通し、環境への配慮や社会への貢献、そして、企業としてのコンプライアンスの徹底に努め、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えます。本報告書を通じて当社の活動についてご理解をいただき、ご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長 櫻井 醜

Corporate file

会社概要

社名 トッパン・フォームズ株式会社
 TOPPAN FORMS CO.,LTD.
 所在地 本社：東京都港区東新橋1-7-3
 設立 1955年5月
 資本金 117億5,000万円
 売上高 2,358億円(2009年3月期連結)
 従業員数 7,357名(2009年3月末現在連結)
 営業内容 ビジネスフォーム(帳票)、データ・プリント・サービス(DPS)、RFID・ICカードおよび関連機器、eビジネス、フォームプロセッサ、オフィスサプライ、コンピュータシステム要員派遣、コンピュータ周辺機器保守サービス、マイクロカプセル

主要事業所および工場

本社、営業統括本部、製造統括本部、東日本事業部、中部事業部、関西事業本部、西日本事業部、中央研究所、日野工場、福生工場、川本工場、TFT浜松工場、TFT静岡工場、TFTメディア工場、TFK大阪工場、TFK摂津工場、TFN九州工場

トッパンフォームズ企業グループ(国内)

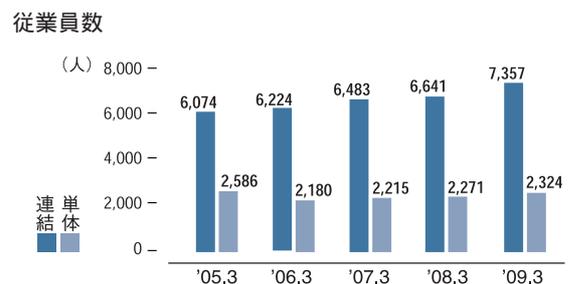
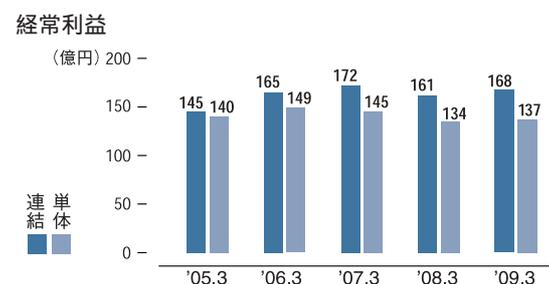
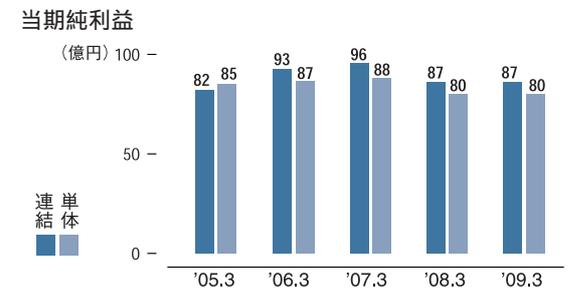
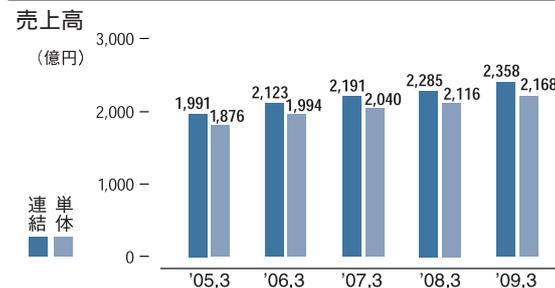
トッパン・フォームズ東海株式会社
 トッパン・フォームズ関西株式会社
 トッパン・フォームズ西日本株式会社
 トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社
 トッパン・フォームプロセス株式会社
 テクノ・トッパン・フォームズ株式会社
 トッパン・フォームズ・サービス株式会社

北海道トッパン・フォームズ株式会社
 山陽トッパン・フォームズ株式会社
 香川ビジネスフォーム株式会社
 沖縄ビジネスフォーム株式会社
 株式会社 KCF
 株式会社ジクシス
 株式会社トスコ
 株式会社 テイエフ メディエイト
[凸版印刷株式会社](#)

トッパンフォームズ企業グループ(海外)

T.F.カンパニー社(香港)
 トッパン・フォームズ(香港)社
 トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社(香港)
 トッパン・フォームズ・コンピュータ・システムズ社(香港)
 北京トッパン・フォームズ社
 北京三盾証卡技術有限公司
 深圳瑞興紙業有限公司
 トッパン・フォームズ・インフォメーション・システムズ(上海)社
 マンソン・コンピュータ・フォーム社(マカオ)
 トッパン・フォームズ(シンガポール)社
 CFMトッパン・フォームズ(マレーシア)社
 データ・プロダクツ・トッパン・フォームズ社(タイ)
 トッパン・フォームズ(コロンボ)社
 トッパン・フォームズ(アメリカ)社

財務情報



トッパンフォームズ国内ネットワーク



環境方針

トッパンフォームズ 環境理念・方針

当社は、経営信条「三益一如」のもとで企業活動を行っています。地球環境保全についてもこの信条に基づいた「環境に関する基本理念」を制定し、さまざまな活動に取り組んでいます。

基本理念

トッパンフォームズは、
地球環境の保全が、人類共通の重要課題である事を認識し、
企業としての社会的責任を果たすために、
適切な施策を全社的に、継続的に展開してまいります。

方針

1. 「環境の確保と社員の意識高揚」

地球環境保全活動を推進するため、社内体制を整備し、社員の環境保全意識の向上を図ると共に、環境保全活動への参加を積極的に支持奨励します。

2. 「省資源・省エネルギー・リサイクルの推進」

地球資源確保のため、材料・生産エネルギーのロスを削減し、リサイクル可能な材料の購入等により、省資源・省エネルギー・資源のリサイクル化を推進します。

3. 「法規制の遵守」

環境関連の法規制を遵守することはもとより、自主基準を定め、環境保全に努めます。

4. 「廃棄物の削減・環境汚染の防止」

オゾン層破壊物質、地球温暖化物質、有害物質など環境に負荷を与える物質を、代替技術・代替物質への転換などにより可能な限り削減し、環境汚染の予防に努めます。

5. 「エコ商品の開発・販売」

環境負荷の少ない、環境保全に役立つ商品および技術の開発に努めます。

経営信条 三益一如

社会益：私たちは事務革新のパイオニアとなり日本経済発展のために寄与いたします。

会社益：私たちは事務革新のパイオニアとなり会社の発展向上のためにつくします。

個人益：私たちは事務革新のパイオニアとなり自分の幸福を築くために頑張ります。

環境マネジメント

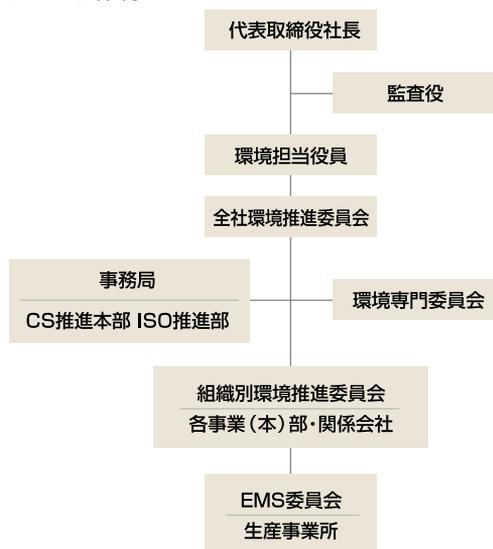
マネジメントシステムと体制

当社グループの環境保全活動を継続的に推進するために、「**全社環境推進委員会**」、「**環境専門委員会**」、「**組織別環境推進委員会**」および「**EMS*委員会**」を設置しています。これらの環境組織は、代表取締役社長および環境担当役員が管轄し、事務局が運営を行っています。

当社グループの主要工場ではISO14001の認証を取得し、それ以外の生産事業所では社内EMS構築指針に基づく社内EMSを構築して目標達成に向けた活動を推進しています。

* EMS(Environmental Management System); 環境マネジメントシステム

マネジメント体制



ISO14001認証取得状況

当社グループでは、研究所・工場を中心に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得(認証機関: JQA)を進めています。

2008年度は、4生産事業所がそれぞれ認証取得していたトッパン・フォームズ関西(株)が、認証範囲に入っていなかった2部署を加え、トッパン・フォームズ関西(株)として認証を拡大・統合しました。

ISO14001認証取得状況

事業所名	登録日
日野工場	2001/6/8
福生工場	2004/2/13
開発研究所 *1	2004/3/26
トッパン・フォームズ東海(株)	2004/8/6 *2
TFN九州工場	2005/1/28
川本工場	2006/8/4
トッパン・フォームズ関西(株)	2007/4/27 *3

*1 「開発研究所」は中央研究所を含むISO14001認証取得対象組織です。

*2 日付は名古屋工場の認証取得日です。

*3 日付はTFK江坂センターの認証取得日です。

ISO14001認証取得担当者のコメント



トッパン・フォームズ関西(株)
管理部管理グループ
(左から)真崎 伸吾 戸田 芳郎 安藤 一男 光嶋 克也 藤下 樹

トッパン・フォームズ関西(株)は、これまで4事業所(大阪、江坂、摂津、神戸)が事業所ごとに認証を取得していましたが、プリプレスデータの製作部署など2部署を加え、2009年3月に認証を拡大・統合しました。

各事業所で確立されたシステムを統合するのは、ゼロからの構築とは別の意味で大変でしたが、これまでの活動を基本から見直す良い機会になりました。

環境改善への取り組みに終わりはありません。従業員の意識をさらに高め、統合のメリットを活かした効果的な活動を進めていきます。

環境教育

当社グループでは、新入社員全員を対象に、環境に関する基礎知識の習得や意識向上を目的とした集合研修を実施しています。社員に対しては、通信教育に環境関連の知識を習得できるコースを設けて、環境活動に対する自己啓発を促しています。各生産事業所のISO事務局に対しては、レベルアップを目的とした年2回の集合研修を実施しています。

各生産事業所では、各々の事業内容に応じた環境教育を実施しています。

また環境に関する法令改正などの情報提供や環境保全に関する意識向上のために、全社に「環境情報」を配信しています。



環境教育の様様

環境教育の実施状況

- 環境研修
- ISO事務局研修
- 事業所での実施例
 - ・環境管理システムに関する教育
 - ・環境遵法研修
 - ・朝礼時のワンポイント教育

環境監査

当社グループすべての生産事業所に対し、社内環境監査を年1回実施しています。

監査は本社CS推進本部ISO推進部が主管となり、対象事業所の環境目標の達成状況、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価します。監査は、社内認定試験に合格し登録されている監査員が実施します。

2008年度の環境監査では、125件の指摘事項がありました。主な指摘事項は次の通りです。

- ・改善対策が計画通り実施されていない
- ・社内管理基準の超過実績がある
- ・環境目標の進捗管理が不十分である

各生産事業所は監査員が提出する「改善要望書」の指摘事項に対して、真摯に改善活動に取り組んでいます。



環境監査の実施状況

法規制遵守

各生産事業所の法規制遵守状況は、社内環境監査によるヒアリングおよび現場査察により確認を行っています。

2008年度は、特に問題はありませんでした。

環境保全設備投資

当社グループでは、2001年度実績より環境会計を導入し、環境保全にかかるコストとその費用対効果の把握に活用しています。

環境会計の機能は、内部機能と外部機能があります。内部機能は、費用対効果を明確にし、環境効率の向上を図り、環境投資などの環境経営の判断材料として経営意思決定に役立てることです。外部機能は、企業の環境保全への取り組み状況を定量的に公表するシステムとし

て、利害関係者の意思決定に影響を与える機能を果たすことです。2006年度実績より集計および情報公開方法を見直し、集計結果は「環境保全設備投資額」として表しています。

- ・集計範囲 / トップラン・フォームズ株式会社11事業所と関係会社10社
- ・集計期間 / 2008年4月～2009年3月

環境保全設備投資額

(単位:千円)

項目	2005	2006	2007	2008	増減 (当期-前期)
(1)公害防止設備投資額	12,947	38,976	12,824	24,152	11,328
(2)地球環境保全設備投資額	4,485	4,950	4,950	79,281	74,331
(3)資源循環設備投資額	0	11,000	11,920	28,949	17,029
(4)管理活動設備投資額	0	22,583	21,963	7,707	-14,256
合計	17,432	77,509	51,657	140,089	88,432

環境保全設備投資額

2008年度の環境保全設備投資額は総額約140百万円となりました。内訳として、公害防止設備投資額では、浄化槽設備や排水設備などの更新を実施し、前年度より約11百万円増加しました。地球環境保全設備投資額では、温暖化防止のためボイラーなど諸設備を整備し、前年より約74百万円増加しました。資源循環設備投資額は紙片処理装置の導入を継続し、前年度より約17百万円増加しました。投資額全体としては、前年度よりも約88百万円増加となりました。

今後の取り組み

環境保全設備投資に焦点をあてることによって、より精緻化した算定方法を確立し、費用対効果把握の精度を上げ、環境経営の実践に一層役立つ環境会計の運用を目指します。

環境目標

中期目標と 2008年度の目標・実績

当社グループでは、2010年度までの中期目標と単年度ごとの目標を設定し、その達成に向け環境保全活動を推進しています。

2008年度の環境目標については、10項目で目標を達成することができましたが、1項目は未達成に終わりました。

廃棄物削減とリサイクル推進では、廃棄物排出量原単位、廃棄物最終埋立量、廃棄物リサイクル率のすべてにおいて目標を達成でき、廃棄物排出量原単位と廃棄物最終埋立量では目標を大幅に超えて達成できました。

また、化学物質管理では、PRTR法第一種指定化学物

2008年度の環境目標と実績

中期目標	2008年度環境目標	2008年度実績	評価
地球温暖化防止			
CO ₂ 排出量原単位 (CO ₂ 排出量/生産高)を2010年度までに2003年度比11%削減	CO ₂ 排出量原単位を2007年度比2.3%削減	2007年度比1.3%削減	×
廃棄物削減とリサイクル推進			
廃棄物排出量原単位 (廃棄物排出量/生産高)を2010年度までに2003年度比15%削減	廃棄物排出量原単位を2007年度比2%削減	2007年度比7.6%削減	◎
廃棄物最終埋立量を2010年度までに2003年度比70%削減	廃棄物最終埋立量を2007年度比10%削減	2007年度比14.0%削減	◎
当社グループでゼロエミッションを2010年度までに達成 (ゼロエミッション=廃棄物リサイクル率98%以上)	廃棄物リサイクル率97.7%	2008年度の廃棄物リサイクル率は97.9%	○
化学物質管理			
PRTR法*1第一種指定化学物質の使用量を2010年度までに2003年度比60%削減	PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2007年度比5%削減	2007年度比16.6%削減	◎
環境配慮型製品の開発と販売強化			
環境配慮型製品の開発と販売促進活動の推進	環境配慮型製品販売額を2007年度比10%増加	2007年度比11.9%増加	○
グリーン調達			
グリーン調達の推進	グリーン調達基準に基づき推進	グリーン調達基準に基づき実施	○
環境コミュニケーションの促進			
情報公開の促進	環境報告書の発行	環境報告書2008を発行	○
社会貢献の推進			
社会活動に参加し、環境保全に積極的に貢献	地域の環境保全活動への参加	各事業所で地域の行事への参加および清掃などを実施	○
環境マネジメント			
海外生産事業所における環境保全活動の積極的推進	現地における環境保全活動の推進	環境影響調査の実施	○
法規制を包含した適切な社内管理基準の設定と遵守	生産事業所における管理基準の遵守 ⇒社内環境監査による確認	27生産事業所に監査を実施し、管理状況を確認	○

(評価基準 : 目標を大幅に超えて達成できた : 目標を達成できた × : 実施したが目標達成できなかった)

*1 PRTR法 : 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR = Pollutant Release and Transfer Register)

質の使用量削減で目標を大幅に超えて達成できました。

地球温暖化防止では、CO₂排出量原単位を2007年度より削減できましたが、目標達成には至りませんでした。

さらに、2010年度までの中期目標については、廃棄物排出量原単位削減とPRTR法第一種指定化学物質の

使用量削減において目標を達成できましたので、新たに上乗せした目標値を設定しました。

2009年度の環境目標

中期目標	2009年度環境目標	具体的施策
地球温暖化防止		
CO ₂ 排出量原単位 (CO ₂ 排出量/生産高)を2010年度までに2003年度比11%削減	CO ₂ 排出量原単位を2008年度比2.3%削減	生産効率の向上、省エネ設備への切替などによるエネルギー使用量の削減、空調・照明などの電力使用量削減
廃棄物削減とリサイクル推進		
廃棄物排出量原単位 (廃棄物排出量/生産高)を2010年度までに2003年度比20%削減*1	廃棄物排出量原単位を2008年度比2%削減	原材料投入量の削減、損紙の低減、生産工程の見直し
廃棄物最終埋立量を2010年度までに2003年度比70%削減	廃棄物最終埋立量を2008年度比10%削減	最終的に埋立処分となる廃棄物排出量の削減、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定
当社グループでゼロエミッションを2010年度までに達成 (ゼロエミッション=廃棄物リサイクル率98%以上)	廃棄物リサイクル率98.0%	再生・再資源化していない廃棄物排出量の削減、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定
化学物質管理		
PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2010年度までに2003年度比65%削減*2	PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2008年度比5%削減	対象化学物質を含有した資材の使用量削減、対象化学物質の低含有または非含有資材への切替
環境配慮型製品の開発と販売強化		
環境配慮型製品の開発と販売促進活動の推進	環境配慮型製品販売額を2008年度比10%増加	認定基準を満たす製品の開発、販売活動の推進
グリーン調達		
グリーン調達の推進	グリーン調達基準に基づき推進	グリーン調達基準に基づき実施
環境コミュニケーションの促進		
情報公開の促進	環境報告書の発行	環境報告書の発行
社会貢献の推進		
社会活動に参加し、環境保全に積極的に貢献	地域の環境保全活動への参加	事業所ごとの環境保全活動への参加
環境マネジメント		
海外生産事業所における環境保全活動の積極的推進	現地における環境保全活動の推進	環境影響調査の実施
法規制を包含した適切な社内管理基準の設定と遵守	生産事業所における管理基準の遵守 ⇒社内環境監査による確認	社内環境監査による確認 電子マニフェスト化の推進

*1 廃棄物排出量原単位の中期目標については、目標値である15%削減を2008年度において達成できましたので20%削減を新たな目標値としました。

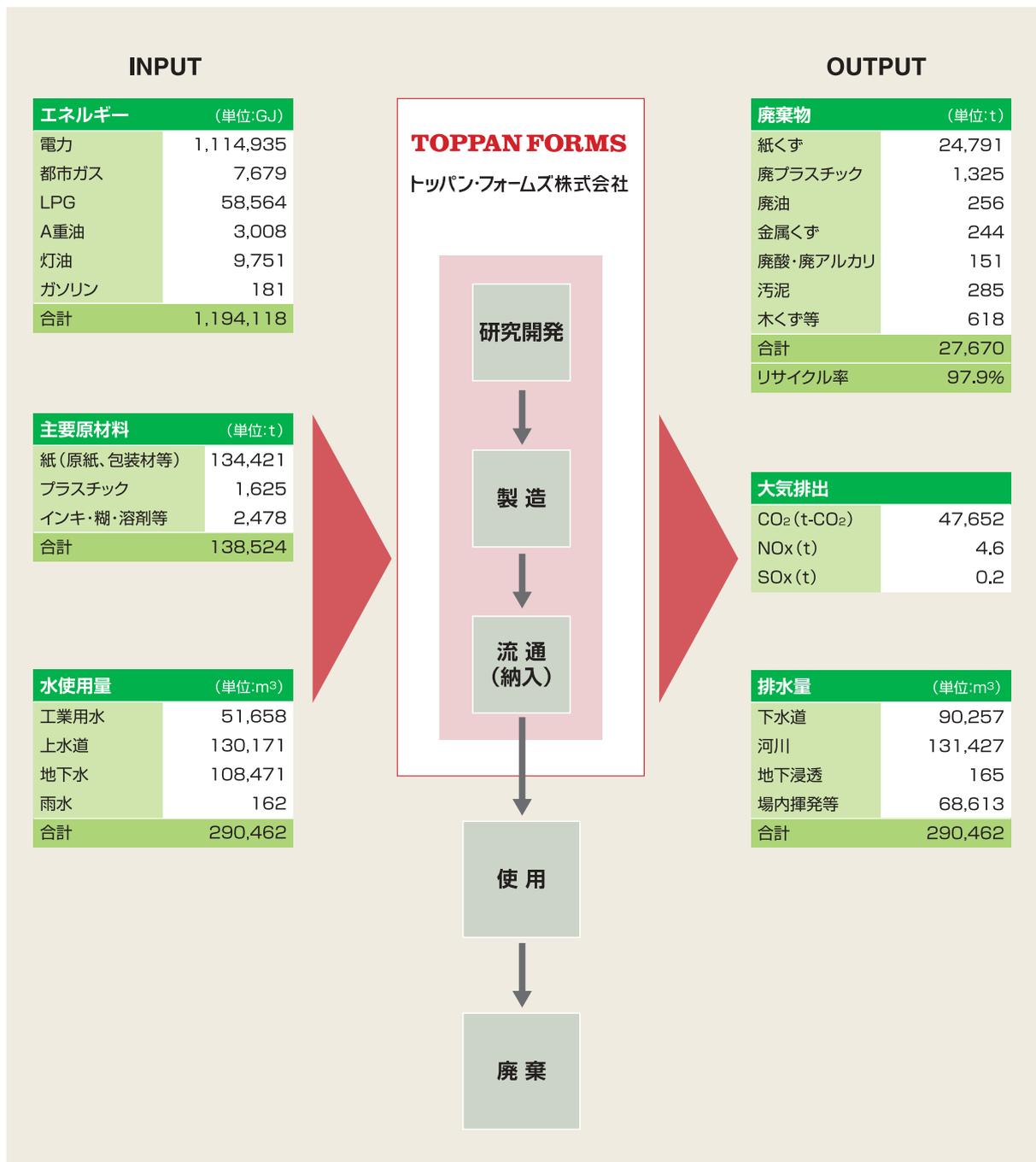
*2 PRTR法第一種指定化学物質の使用量の中期目標については、目標値である60%削減を2008年度において達成できましたので65%削減を新たな目標値としました。

マテリアルバランスと環境影響

当社グループの事業活動と環境にかかわる物質移動の状況を図に示します。

製造時に使用するエネルギーは、電力の割合が高く全体の93.4%を占めています。

また、廃棄物の89.6%は紙くずが占めていますが、紙くずの大部分はリサイクルされています。廃棄物全体でのリサイクル率は97.9%となっています。



電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。

CO₂排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(平成15年)」に基づき算出しています。なお、環境省・経済産業省の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(平成21年)」に基づき算出した場合、2008年度のCO₂排出量は54,147(t-CO₂)となります。

データの集計範囲については、本冊子冒頭の「報告対象範囲(集計範囲)」を参照してください。

環境に配慮した製品・サービス

当社は、4Rの実践をテーマに環境配慮型素材を活用した製品やサービスを提供しています。

トッパンフォームズの環境配慮型製品・サービス

製品群	Reduce	Reuse	Recycle	Return
ストックフォーム		・再生紙ストックフォーム	・統一伝票（大豆油インキ使用） ・ストックフォーム（大豆油インキ使用）	
メーリングフォーム（ハガキ）	・POSTEX ・隠蔽シール付ハガキ	・POSTEX- ECO100	・隠蔽シール付ハガキ	
メーリングフォーム（封書）	・ECO封筒（ケナフ） ・メールワン・シングル/マルチ ・シーリングフォーム ・パンフダイレクト	・ECO封筒（封筒本体に再生紙使用） ・ECO封筒（窓素材に再生OPS使用）	・ECO封筒（窓素材に再生可能グラシン紙使用） ・メールワン・シングル/マルチ	・ECO封筒（窓素材に生分解性フィルム使用） ・わんぱくくめーるエコ（封筒素材に生分解性フィルム使用）
運輸伝票	・EXフォーム			
タック / ラベルフォーム	・Qstix ・部分タックフォーム ・駐輪ラベル ・両面サマーラベル	・再生紙タックフォーム	・再生可能はく離紙使用タックフォーム ・ゴミラベル（再生可能はく離紙使用）	
リライトメディア		・ファインリライトカード ・リライトメディア		
その他	・超軽量カラー冊子	・トナーカートリッジ・リサイクルサービス ・ICエコラベル	・文書リサイクル処理サービス ・脱墨性向上UVインキ使用印刷物	

POSTEX、わんぱくくめーる、Qstix、メールワン、シーリングフォーム、ファインリライト、パンフダイレクト、オータスカリはトッパン・フォームズ（株）の登録商標です。

FSC およびPEFCのCOC認証の取得

トッパンフォームズは、2つの森林認証制度FSCとPEFCを取得しました。

認証製品を普及させていくことは、健全な森林の育成を支援し、森を守ることにつながります。当社グループは、持続可能な社会を実現するために、お客様への積極的な環境配慮型製品の提案を行っていきます。

COC認証（Chain of Custody認証）は、適切に管理された森林（Forest Management認証）から伐り出された木材が、加工・流通の段階において他の木材と混ざることなく管理されていることを認証する制度です。



責任ある森林管理のマーク
SA-COC-1571
© 1996 Forest Stewardship Council A.C.

認証登録番号：SA-COC-1571
2006年8月取得

FSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）環境・社会活動に関わる団体、先住民団体、林業に関わる人々、林産物認証機関など、森林管理に関わる利害関係者を代表する組織および個人に開かれた会員制の組織です。



持続可能な森林管理の促進
www.pefc.org

認証登録番号：CEF0810A
2008年11月取得

PEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes）林業に関わる人々、政府、労働組合、環境団体、その他のNGOやNPOなどの利害関係者の参画に基づき、各国で個別に策定された森林認証制度の審査およびそれら制度間の相互承認を推進する組織です。

■ POSTEX- ECO100(Wピール)

再生紙を使用したフルカラー対応の圧着ハガキです。開封面はフィルムと同等の光沢を持ちながら、フィルムと異なり簡単に破棄できるため、個人データの流出が防げます。また、用紙は古紙として再利用可能です。



POSTEX- ECO100

■ ECO封筒

封筒本体に森林認証紙、窓部分に生分解性プラスチック、印刷には大豆油インキを使用しているタイプをはじめ、環境に配慮した素材を組み合わせた各種封筒を取り揃えています。



ECO封筒

■ EXフォーム

従来、運輸関連の伝票は5枚～8枚程度の複数枚の複写用紙から成り立っており、配送の各段階で切り取ることで受け渡しの確認を行っていました。しかし、バーコードを使った物流管理によって送り状と判取片の2枚があれば確認ができるようになったため、当社では疑似1枚化を図り、紙使用量を削減しました。



EXフォーム

■ ICエコラベル

UHF帯の導入に伴い、今後更なる普及が期待されるICラベル製品は、その表面基材にフィルムや石油を原料とした合成紙を使用しています。本製品はこれらの部材を再生PET合成紙・再生上質紙に置き換え、石油や森林資源の使用量を削減しています。



ICエコラベル

■ Qstix

ラベルからはく離紙をなくしたロール状のラベルです。はく離紙がないので、ラベル使用時にゴミが発生しません。マシン目から一枚ずつ切り離すことができ、使いやすさも考慮しています。



Qstix

■ 両面サーマルラベル

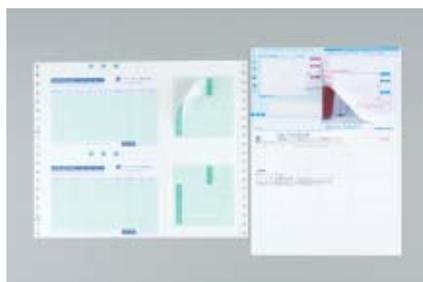
両面サーマルプリンタを使い、表裏を一度に印字できるサーマルラベルです。糊とシリコンの特殊加工により、ラベルと伝票の一体化や両面ラベルとして使用可能です。はく離紙がないため、環境に配慮したラベルです。



両面サーマルラベル

■ 部分タックフォーム

必要な部分だけに糊加工を施しているため、ゴミとなる
はく離紙を減らすことができます。また伝票とラベルを一
体化したことでプリントのマッチングミスがありません。



部分タックフォーム

■ わんぱくくめ〜る エコ

生分解性プラスチックフィルムを使用したラッピング
型封筒です。コンポストなどで処理すると分解し、自然
に還ります。



わんぱくくめ〜る エコ

■ 隠蔽シール付ハガキ

大切な情報をお守りするシールと、返信用のハガキが一
体化した製品です。すべて再生が可能な素材を使用してい
ます。



隠蔽シール付ハガキ

■ パンフダイレクト

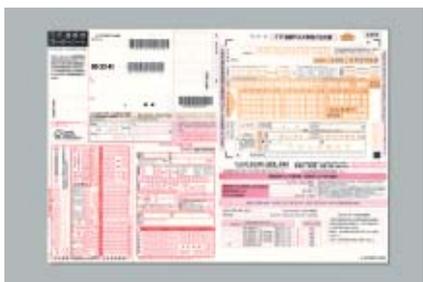
郵送する冊子をとめるシールと宛名のシールのみで構
成された郵送物です。冊子以外の部材が、従来の封筒形
態と比較して9割削減できます。さらに、シールはきれ
いにはがすことができ、個人情報保護の宛名処理も簡単
に行えます。



パンフダイレクト

■ 脱墨性向上UVインキ使用印刷物

速乾性やプリンタでの印字適性を求められるビジネス
フォーム用に、業界で初めてエコマーク認定を取得した
脱墨性に優れた紫外線硬化インキを開発、郵振払込票な
どの入出力フォームに使用しています。



脱墨性向上UVインキ使用印刷物

■ 超軽量カラー冊子

33 g/m²の超軽量の印刷用紙を使用したカラー印刷
対応の小冊子です。森林資源の節約が可能です。製本は
金属類を使用しない糊綴じです。



超軽量カラー冊子

■ 両面サーマルラベル / 発行プリンタシステム

商品流通の手段として使用されるラベルをエコ化した両面サーマルラベルは、ラベル同士を貼り合わせ、表裏両面をプリンタで印字することで、印字ヘッドの耐久性向上、高速印字、はく離紙不要のエコ化を実現しました。



■ パンフダイレクト発行システム

冊子に直接宛名ラベルとテープを貼付した形態です。冊子を入れる封筒を使用せず、最小限の梱包資材で済むためゴミが約90%も削減可能です。ゴミを出さない、送らない！企業のイメージアップにもつながります。

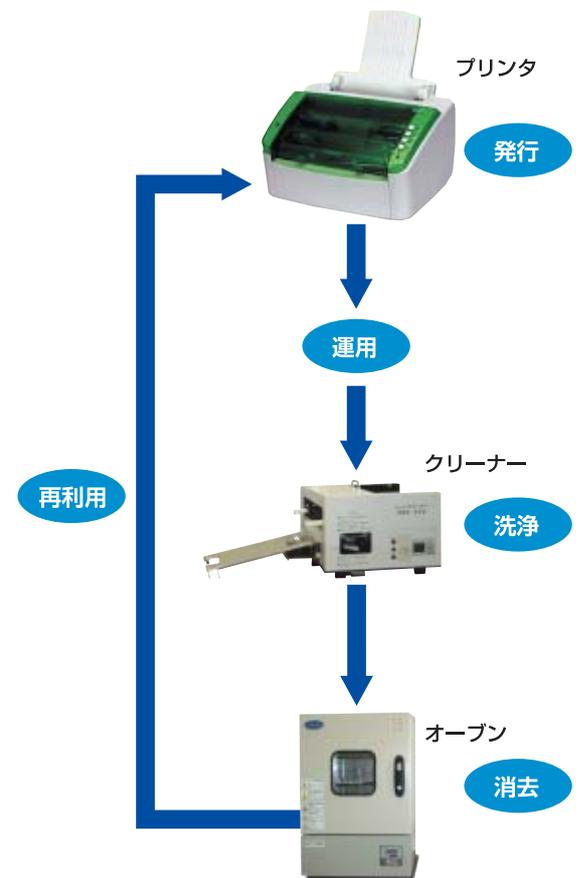


■ リライトペーパー発行-消色システム

リライトシートは何度も繰り返し書き換えができ、用紙使用量を削減できるサーマルメディアです。低温印字による省エネルギー、オープンによるバッチ消色を採用することで高速出力を実現しました。環境負荷低減とコスト削減に貢献するシステムです。



リライトシステム運用フロー



■ オータスカリ

オータスカリ(O-TASCARRY)は、トッパンフォームズが提供するオフィス用品調達システムです。インターネットを利用してオフィスに必要な消耗品全般を販売します。

同システムでは、「グリーン購入法適合」や「GPN*データベース掲載(エコ商品ねっと)」などをキーワードにして、エコ製品を検索し購入することができます。

また、オータスカリカタログもエコ製品を中心に掲載しており、グリーン購入を推進しています。

2009年度版オータスカリカタログは、印刷・製本に必要な電力をすべてグリーン電力(地熱発電)でまかっています。

* GPN (Green Purchasing Network):
グリーン購入ネットワーク



オータスカリ カタログ

■ 文書リサイクル処理サービス

機密文書や保管期間の過ぎた大量の書類を、安全・確実に廃棄するとともに、リサイクルも行うサービスです。お客様ごとに異なる要望に対処するため、4つのメニューを用意しています(サービス範囲:1都3県)。

出張シュレッダー方式

シュレッダーを搭載した専用トラックが指定の場所に伺い、作業員がその場で破砕します。そのくずを持ち帰り、リサイクル処理をします。

シュレッダーレンタル方式

シュレッダーをレンタルします。破砕くずを回収し、リサイクルします。

専用ボックス処理方式

回収用の段ボールが入る鍵付きの専用ボックスを購入していただき、投入された書類ごと回収し、破砕・溶解リサイクル処理をします。

一括処理方式

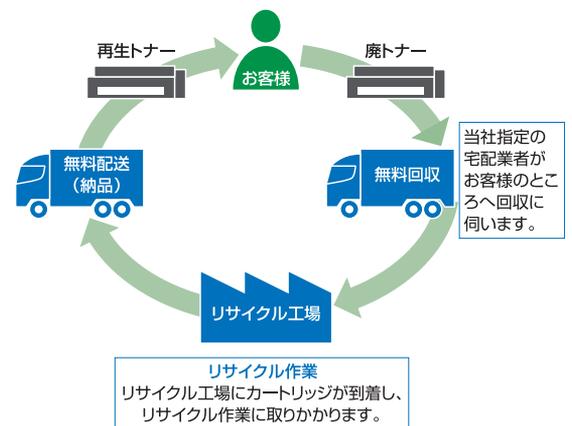
専用のトラックで一括回収し、破砕・溶解リサイクル処理をします。

文書は溶解処理した後、トイレットペーパーや段ボール原紙などに生まれ変わり、循環型社会構築に貢献します。

■ トナーカートリッジ・リサイクルサービス

お客様から回収した廃トナーカートリッジを再生して、再びお客様のところへお届けするサービスです。自ら使用していたカートリッジなので、カートリッジ寿命を把握でき、効率的なカートリッジ利用ができます。コスト面でも新品カートリッジに買い換える場合に比べて、最大70%のコスト削減になります。

廃棄物の発生を抑制するだけでなく、最終的に寿命を迎えたカートリッジについてもリサイクルされます。



■ ファインリライトカード

プラスチックカードに繰り返し印字・書き換えできるリライト層を設けたカードです。専用リーダーライターで500回以上印字・書き換え可能です。繰り返し使用できるので、カードを大量に消費することがなく、省資源につながります。

磁気カードやICカードにも対応可能です。



研究・開発

環境配慮型製品の開発

トッパンフォームズでは、3RにReturn(還る)を加えた「4R」の実践に取り組んでいます。

- ・Reduce(減らす)
- ・Reuse(再使用する)
- ・Recycle(再資源化する)
- ・Return(自然に還る)

開発製品一つ一つに関して環境貢献度を評価

研究開発の結果として誕生するすべての開発製品に関して、CO₂排出量削減、原材料使用量削減、廃棄物排出量削減など環境への貢献度を評価し、研究開発テーマの環境目標としました。

また、環境貢献度が高い開発製品を生み出すテーマを優先的に実行することにより、2008年度は10以上のテーマで環境目標を達成しました。

研究開発における環境に配慮した新技術

印刷アンテナ

RFID製品の主要部品であるアンテナに関し、印刷にて製造する方式を構築しました。

これにより、従来のエッチング製法では最大5つあった工程を1つに集約でき、本方式に切り替えることで廃液排出量を1/300まで減らすことが可能となります。印刷方式に順次切り替えていきます。

印刷を利用した電子回路形成技術の研究

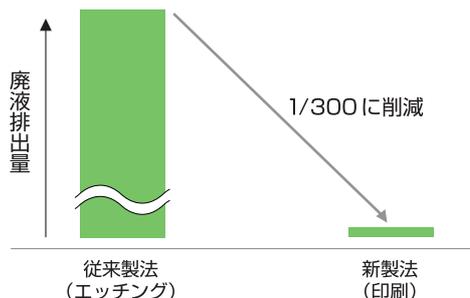
従来のエッチング製法では、配線として利用しない部分を溶解して取り除くために、大量の廃棄溶剤が発生します。

しかし、現在研究している印刷製法では必要な部分にだけ配線を形成し、溶剤を必要としないため、廃棄溶剤ゼロが実現できます。

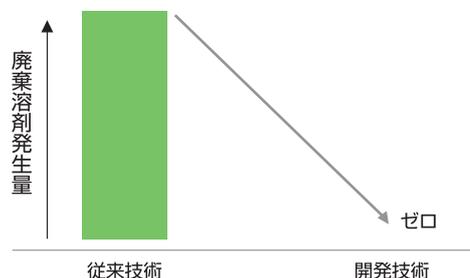
研究・開発分野における環境配慮項目(例)

設備
装置の高効率化による使用エネルギー削減 装置の高精度化による材料の有効利用推進 品質検査のオンライン化による生産効率向上
材料
PRTR指定化学物質の使用量削減 塗工材の基材への定着エネルギー削減 リサイクル材料、生分解性材料の利用推進
製品
オンライン生産推進による輸送エネルギー削減 小型・薄型化による使用材料削減 省エネ設計による使用エネルギー削減

アンテナ製造にともなう廃液排出量



配線形成工程での廃棄溶剤発生量の比較



建物・施設

新工場の環境配慮

当社では、新たな生産スペースの確保と稼働効率の改善を図るため、東京都八王子市戸吹町に新工場の建設準備を進めています。

戸吹地区は、圏央道あきる野インターチェンジから至近距離に位置し、物流面に秀でた地域で、八王子市の都市計画マスタープランで流通・研究業務地区として位置づけられ、準工業地域に指定されています。

建設予定地は、民間グラウンドの跡地で、周辺地域を含めた土地区画整理事業により基盤整備されています。新工場は、お客様に満足いただける製品をお届けできるよう、品質保証の充実、情報セキュリティの強化などを図り、環境面においては緑地の確保、省エネルギー対応、雨水の有効利用など周辺環境への影響をできる限り小さくし、周辺の市街地や自然環境との調和を図ります。



■ 既存緑地の確保と植栽による緑地確保

新工場予定地内にある既存の緑地については、改変を最小限とし、都条例に基づいた緑化計画で確保しています。

また、敷地外周部にも積極的に緑地を配し、自然環境の保全や周辺環境との調和に配慮しています。屋上には芝生などの緑地を確保し、断熱作用による省エネルギー効果やCO₂吸収など環境への影響を可能な限り小さくするよう配慮しています。

■ 環境影響評価の実施

東京都条例に基づいた環境影響評価の実施や住民説明会などを行いました。事業の実施にともない周辺環境に及ぼす影響を予測・評価し、その結果について、地域の皆様や関係自治体などの意見をお聞きし、専門的立場からその内容を審査して、環境への影響をできる限り小さくするよう配慮していきます。

■ 新システムの導入による省エネルギー

太陽光発電システムを導入し、電力の一部を太陽光発電でまかさないです。再生可能な自然エネルギーの有効利用でCO₂排出をできる限り抑制します。

また、省エネ対応の最新鋭の設備を導入し、エネルギー使用によるCO₂排出量を削減します。

■ 雨水の浸透と有効利用

歩道や駐車場は、透水性の舗装などを採用し、雨水浸透に配慮します。雨水は、貯水槽に貯め、緑地への散水や事業所内のトイレ用水として有効利用します。

中央研究所の環境配慮

2009年2月に中央研究所の建て替え工事を竣工しました。

空調システムは、夜間電力を活用した氷蓄熱システムを採用し、昼間の電力使用を効果的に抑制しています。また、吹き抜けの作業場に省電力・長寿命のLED照明を採用したり、階段やトイレの照明に人感センサーを採用することで省エネルギー化を図りました。

さらに、通常利用しない屋上の一部に芝生を植え、階下気温上昇の抑制、都市部におけるヒートアイランド現象の緩和、緑地確保によるCO₂吸収などに貢献できるよう配慮しました。



環境パフォーマンス

地球温暖化防止への対応と省エネルギー

地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素(CO₂)の排出を抑制するため、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

当社のエネルギー使用量の93.4%は電力です。電力使用量を節減するため、生産時使用電力の節減、空調・照明電力の節減などの取り組みを実施しています。

2008年度は前年度に比べ、CO₂排出量原単位で1.3%削減しましたが、CO₂排出量は増加しています。今後も省エネルギー活動を進めるとともに、設備更新にともなう省エネルギー型設備への転換などを通じてエネルギー使用量を削減し、CO₂排出量の削減を目指します。

水の使用状況

生産事業所で使用する水は、地下水と水道水です。主に生活用水、空調冷房機や印刷機の冷却用水として使用しています。

化学物質管理

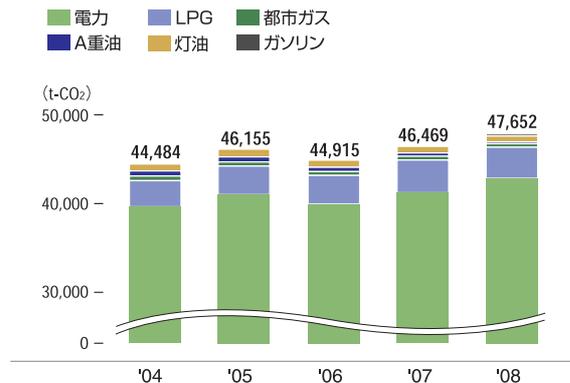
当社グループでは「化学物質管理マニュアル」に基づき、使用している化学物質を把握して適正に管理しています。新規材料を導入する際は、MSDS*などの情報に基づいた導入評価を行っています。環境目標達成に向けた代替品の検討などを継続的に進めています。

2008年度は洗浄剤などの代替品変更により、PRTR法第一種指定化学物質の使用量を16.6%削減しました。

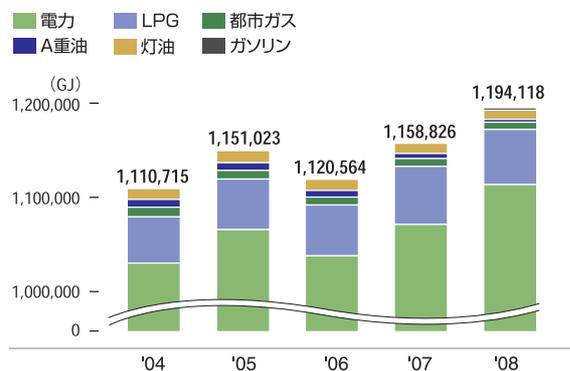
なお、当社グループのPRTR法に基づく届出事業所は川本工場とTFT静岡工場の2工場です。

* MSDS (Material Safety Data Sheet): 化学物質の性状および取り扱いに関する情報

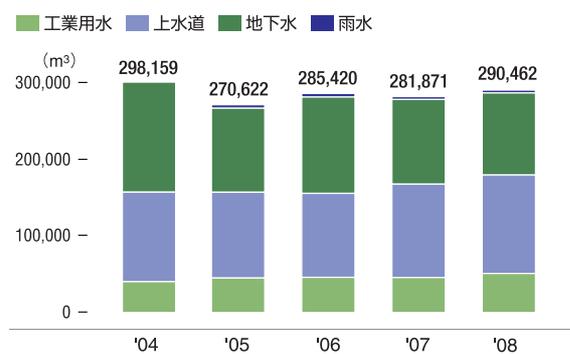
CO₂排出量



エネルギー使用量



水使用量



電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。CO₂排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(平成15年)」に基づき算出しています。

廃棄物処理および低減対策

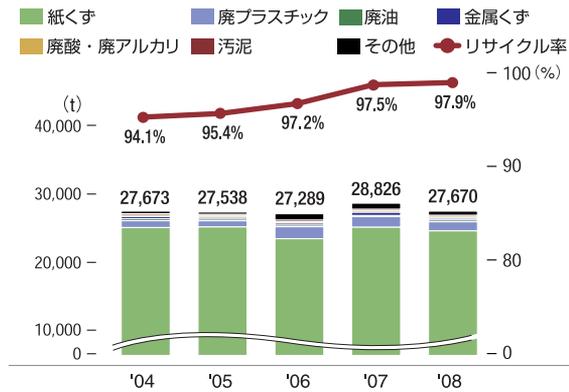
当社グループから排出される廃棄物は、紙くずが89.6%を占めており、紙くず削減が重要なテーマとなっています。各生産事業所では、紙くずを削減するための取り組みとして、生産工程で発生する損紙の低減などを実施しています。

2008年度は廃棄物排出量原単位で7.6%削減することができました。紙くずのほとんどが再生または再資源化されています。廃棄物全体のリサイクル率向上のため、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定などに努めています。

各生産事業所では、資源の有効利用を目的としたゼロエミッション*の実現に取り組んでいます。2008年度は、日野工場、福生工場、川本工場、八戸工場、新潟工場、辰巳工場第一センター、TFK神戸工場、TFI(浜松工場、静岡工場、名古屋工場)、TFN(本社、九州工場)、北海道トッパンフォームズ、TFP本社、TFS(所沢センター、厚木センター、平塚センター)KCFの18生産事業所で達成しました。

* ゼロエミッション=リサイクル(再生・再資源化)率98%以上

廃棄物発生量とリサイクル率



紙くずの荷姿(日野工場)

損紙低減による廃棄物削減

製造担当役員が管轄する全社プロジェクトで、損紙低減による廃棄物排出量の削減活動を推進しています。定期的に会議を開催し、各製造拠点の有効な施策は、全国に展開し効果をあげています。現場では、標語や実績の掲示など従業員への啓発と具体的な施策の実施を進めています。さらなる損紙低減に向け、継続的な改善を行っています。



紙くずの分別状況(日野工場)

電子マニフェストの導入

当社グループでは、法令遵守や事務手続きの簡素化を図るため、生産事業所を対象に電子マニフェストの導入を推進しています。

2008年度は、10生産事業所において電子マニフェストを導入しました。その他の生産事業所についても、引き続き電子マニフェスト導入を推進していきます。

排水・排出ガス管理

一部の生産事業所では法令または自主基準に基づき、排水のBOD(生物化学的酸素要求量)やCOD(化学的酸素要求量)などを測定、監視しています。

また、ボイラーから出る排出ガスについても同様にNOx、SOxを測定し、監視しています。

水質汚濁物質排出量(負荷量) (単位: kg)

物質名	排出量(負荷量)
BOD	2,150
COD	1,148
窒素	1,780
リン	213

各排出量は排水量および平均濃度から算出
集計範囲は日野工場、福生工場、川本工場、中央研究所、TFT(浜松工場・静岡工場・名古屋工場)、TFK(大阪工場・摂津工場・神戸工場)、TFN九州工場、TFS所沢センター

騒音・振動の低減

当社グループの生産事業所では、騒音や振動について法令を遵守した監視測定を行っています。

TFS所沢センターでは、フォークリフトにブザー音量調節器を取り付け、特に夜間・早朝は音量を絞り騒音防止に努めています。また、従業員への教育により騒音の低減と安全の確保を両立させています。

物流における環境配慮

輸送における環境対応

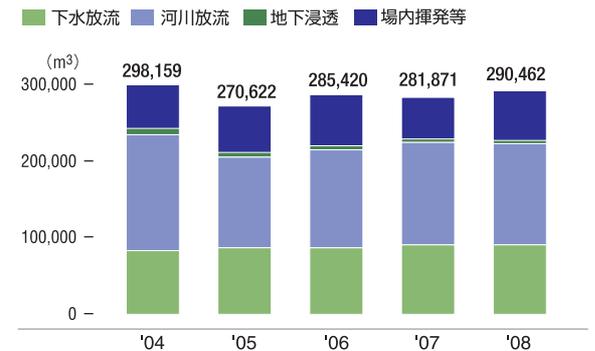
当社グループの物流全般は、協力会社に委託しています。物流分野での環境対応として、天然ガスを燃料としたCNGトラックへの切り替えを、2008年度は4台実施しました。全国の拠点物流センターでは、継続した「アイドリングストップ運動」を実施しており、ポスターの掲示やドライバーへの定期的な教育を行っています。

構内作業における環境負荷軽減

構内作業の主力、フォークリフトはすべてバッテリー車またはLPG車を使用しています。

また、構内作業で発生する廃プラスチック類や紙くずなどの廃棄物に対して、分別ポスターを掲示し、リサイクルを推進しています。2008年度はストレッチフィルムの削減を推進、ゴムバンドの利用や巻き方の工夫により、使用量は前年比6.3%減となっています。

排水量



フォークリフトのブザー音量調節器



CNGトラック

グリーン調達・購入

グリーン調達

当社グループでは、2004年4月から日本印刷産業連合会の「オフセット印刷サービス」グリーン基準に準拠したグリーン調達を行っています。2008年度は用紙の基準

適合率が12.0%でした。今後もより環境負荷の少ない資材の使用を推進していきます。

グリーン調達原則と基準

グリーン原則	グリーン基準		
	水準 1	水準 2	
用紙	再生循環資源を利用した紙の使用	古紙パルプ配合率100%、または古紙パルプ配合率70%以上で残りが森林認証パルプ	古紙パルプ配合率70%以上または森林認証紙、非木材紙、間伐材紙
	白色度の考慮	非塗工紙は白色度70%程度以下(+4%まで)	非塗工紙は白色度80%程度以下(+4%まで)
	塗工量の考慮	塗工量12g/m ² 以下(片面では最大8g/m ² 以下)	塗工量30g/m ² 以下(片面では最大17g/m ² 以下)
	塩素ガスを使用しないパルプの使用	漂白工程で塩素ガス(Cl ₂)不使用のECF漂白パルプ100%	
	有害物質の非含有	着色剤には別表*1のアミンが生成する可能性のあるアゾ着色剤は使用しないこと	別表のアミンが製品1kg当たり30mgを超えて検出されないこと
	古紙再生阻害要因の改善に配慮	「古紙リサイクル適性ランクリスト*2」のB、C、Dランクの資材を使用しないこと	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のC、Dランクの資材を使用しないこと
	再生紙の製造に積極的に取組んでいる企業からの調達	古紙を再生紙原料として積極的に受け入れている企業から調達すること	
オフセットインキ	人体に危害を及ぼす物質の不使用	印刷インキ工業連合会のNL規制に適合すること	
	有害物質発生の原因となる物質の不使用	塩素系樹脂を使用していないこと	
	PRTR指定化学物質の考慮	PRTR指定物質を使用していないこと	PRTR指定物質を特定していること(MSDSを備えている)
	VOC発生の抑制	VOC含有量1%未満(ノンVOCインキ)但し輪転インキは除く	VOC含有量15%未満(低VOCインキ)または大豆油インキ
	古紙再生阻害要因の改善に配慮	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のB、C、Dランクの資材を使用しないこと	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のC、Dランクの資材を使用しないこと
その他資材	日本印刷産業連合会「オフセット印刷サービス」グリーン基準に準拠し設定		

* 1、* 2の詳細については、日本印刷産業連合会「オフセット印刷サービス」グリーン基準をご参照ください。

グリーン購入

2000年10月にグリーン購入の指針となる「グリーン購入基本方針・原則」を策定し、グリーン購入を全社的に推進しています。

グリーン購入のポイント

- ・ OA用紙等
古紙パルプ配合率が70%以上であり、白色度が80%以下であること
- ・ OA機器
電力消費量が少ないこと
リサイクル設計がなされていること
トナーカートリッジが回収・リサイクルされること
- ・ 文具事務用品
再生材料を多く使用していること
消耗品を交換・補充できること

環境コミュニケーション

地域とのコミュニケーション

■ 清掃活動

事業所周辺や地域自治体の清掃活動に参加し、地域社会の一員として地域の環境美化に貢献しています。

■ 地域協議会等への参加

各事業所では、地域の協議会などに積極的に参加し、地域とのコミュニケーションに努めています。

■ 苦情への対応

各事業所では、周辺住民の皆様から寄せられる苦情などに対して迅速に対応し、十分な説明責任を果たせるよう努めています。

■ Kids'ISO(キッズ・アイエスオー)への協力

当社は、東京都が小学生のために行っている「キッズISO14000プログラムの普及事業」に協力しています。「キッズISO14000プログラム」は、国際芸術技術協力機構(ArTech)が開発し、国内および国際的に展開している子供のための環境教育プログラムです。

■ 海岸防災林の植樹会に参加

TFT静岡工場とメディア工場は、地元の掛川市が推進している遠州灘近くの防災林再生事業に賛同し、2009年3月8日の植樹会にボランティアとして参加しました。近年の松枯れによる松林の荒廃によって防災機能が失われつつある海岸林を守るため、アラカシやクスノキなどの広葉樹を3,000本植樹しました。

■ 地域イベントの開催

当社グループでは、事業所ごとに開催している夏祭りなどのイベントを活用して、地域とのコミュニケーションを図っています。

TFK大阪工場は、2008年7月26日に大阪工場の前庭でTFKビール祭りを開催しました。従業員、ファミリー会社関係者、地元関係者、周辺住民など480人を超える参加者があり、地域の方々と楽しい一時が過ぎました。

2008年度地域環境保全活動への参加実績

事業所名	内容
日野工場	日野市一斉清掃活動に参加(2008/5/22、11/20)
福生工場・TFCP製造部	福生市環境フェスティバル参加(2008/6/15)、多摩川河川敷の清掃実施、工場外周の清掃(2008年7月、12月)
川本工場	深谷市のゴミゼロ運動に参加(2008/11/30)
辰巳工場第一センター	江東区辰巳町会一斉清掃に参加(2008/10/15)
辰巳工場第二センター	工場周辺の下草除去
EPSセンター	センター周辺の街路樹の枯葉清掃および道路脇の除草
TFT浜松工場	工場周辺の清掃活動(月1回)
TFT静岡工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFTメディア工場	工場周辺の清掃活動(月1回)
TFT名古屋工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFK大阪工場	・町行政：島本町地下水利用対策協議会 地下水の利用ならびに管理を行い、町に定期報告する ・水保存：名水百選「離宮の水」の保存活動
TFK摂津工場	工場横のバス停周辺の清掃活動(月1回)
TFK神戸工場	工業団地内の一斉清掃に参加(年2回)
TFN九州工場	東部商店会「花いっぱい運動」に参加 近隣国道の清掃活動
TFN本社	工場周辺の車道・歩道の清掃活動(月1回)
北海道TF	工場周辺歩道の清掃 花トピア活動に参加
香川BF	自治会主催の近隣一斉清掃に参加(2008/12/7)
沖縄BF	隣接舗道の街路樹周辺の除草(月1回) および剪定を実施(年1回)
TFS厚木センター	センター周辺の清掃活動(月1回)



日野市主催の市内一斉清掃(日野工場)



植樹会(TFT静岡工場・TFTメディア工場)



TFKビール祭り(TFK大阪工場)

社内・社外コミュニケーション

社内報を通じた啓発

社内広報誌「友美(ともみ)」や「環境情報」に環境に関する記事を掲載し、社員の環境意識の啓発に努めています。

社外への情報開示

当社は、2004年に初めて環境報告書を作成し、毎年継続的に発行しています。また、より多くの方々にご覧いただくため、当社ホームページにも環境報告書を開示しています。今後も引き続き情報開示に努めていきます。

環境報告書URL <http://www.toppan-f.co.jp/kankyou.html>



環境報告書2008

「エコプロダクツ2008」への出展

当社は、2008年12月11日～13日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2008」(主催：社団法人 産業環境管理協会、日本経済新聞社)にトッパングループとして出展しました。

環境への取り組みの紹介や材料由来のCO₂排出削減量を見える化した環境配慮型製品の展示などにより、来場者とのコミュニケーションを図りました。

また、印刷から型抜きまでの製造工程をグリーン電力(風力発電)でまかなった製品で、クリスマスカードを作成して送るイベントは、大人から子供までたいへん好評でした。



「エコプロダクツ2008」の様相

社外からの表彰

埼玉県から「彩の国みどりのプラン賞」を受賞

2007年に開設したトッパン・フォームズ・サービス(株)所沢DPS加工センターの屋上緑化計画が、埼玉県から優良緑化計画に認定され、「彩の国みどりのプラン賞(彩の国優良緑化計画特別賞)」を受賞しました。

「彩の国みどりのプラン賞」は、大規模な屋上緑化や基準を大幅に上回る緑化など他の事業者の模範となる特に優秀なものが表彰され、埼玉県のホームページで紹介されています。



コンプライアンス

トッパンフォームズグループ 全社行動指針

当社グループの従業員は、「三益一如」の経営信条のもと、遵法精神と企業倫理に基づく行動のあり方を示した「トッパンフォームズグループ全社行動指針」に則って日々活動しています。

全社行動指針は2007年に従来の「倫理綱領並びに行動規範」を全面的に見直し、社会から信頼される企業を目指す社員一人ひとりの拠り所となるよう制定しました。2008年には、「3-4 反社会的勢力の排除」を追加しています。

1. 基本方針

1-1 法令・規則等の遵守および誠実で倫理的な事業活動

私たちは、事業活動に適用されるすべての法令・規則を遵守することはもとより、誠実で社会倫理に適った行動に努めます。

1-2 社会との共生

私たちは、健全な事業活動を営むために、株主、顧客、従業員、取引先、地域社会等のステークホルダーの関心に配慮して、経営上の意思決定を行います。

1-3 人権の尊重

私たちは、すべての人の人権を尊重し、性別、年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、障害の有無などによる差別や個人の尊厳を傷つける行為はしません。

2. 誠実で公正な事業活動

2-1 公正な取引

私たちは、事業活動を行う各国・地域において適用される独占の禁止、公正な競争および公正取引に関するすべての法令および規則を遵守します。特に、製品やサービスの販売価格等の決定を内容とする競争事業者との会合、連絡等に関与しません。

2-2 環境の保全

私たちは、「トッパンフォームズ環境理念・方針」のもと、環境に配慮した企業活動を推進するとともに、環境関連法規を遵守し、環境保全の維持向上に努めます。

2-3 企業情報の開示

私たちは、情報開示に関するすべての法令、規制等を遵守し、かかる情報開示を十分な内容で、公正、正確かつ適時に行います。

2-4 個人情報の保護

私たちは、「トッパンフォームズ個人情報保護方針」のもと、預託個人情報はもとより、個人情報の収集、利用、管理等にあたっては、個人情報に関連する法令、社内規程を遵守します。

2-5 知的財産権の尊重

私たちは、知的財産に関する法令、規則等を遵守し、当社の知的財産権の維持、確保に努め、その活用を図るとともに、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害したり、不正に使用しません。

2-6 秘密情報の保護

私たちは、業務上知り得た社内外の秘密情報を適切に管理し、漏洩または不正使用の防止に努めます。

2-7 公正な調達活動

私たちは、仕入先や協力会社の選定にあたっては、常に客観的基準に基づいて判断し、調達活動の公正さを確保します。

2-8 贈答・接待の制限

私たちは、すべての取引先との接待、贈答品等の授受に関して、健全な商習慣や社会常識を逸脱しないよう、節度を持って行動します。

3. 倫理的行動

3-1 インサイダー取引の禁止

私たちは、未公表の内部情報を利用して株式等の売買を行いません。また、当社株式等の売買を行う場合は、事前に会社に報告の上、許可を得て行います。

3-2 利益相反行為の禁止

私たちは、あらゆるビジネス上の判断および事業活動を行うにあたっては、常にトッパンフォームズグループにとって最善の利益となるように考え、行動します。

3-3 会社資産の保全

私たちは、会社の有形・無形の資産を社内のルールに従い適正に管理、使用し、業務以外の目的に使用しません。

3-4 反社会的勢力の排除

私たちは、市民社会の安全・秩序の維持に貢献し、健全で適正な事業活動を推進するため、反社会的勢力とはいかなる関係も持ちません。また、反社会的勢力からの不当請求に対しては断固として拒絶し、いかなる利益供与も行いません。

コンプライアンス活動

■ コンプライアンス推進リーダー制度

当社グループでは、全社行動指針を浸透させるために「全社行動指針ガイドブック」を作成し、当社グループの従業員に配布するとともに、日常活動レベルでの定着のために各職場にコンプライアンス推進責任者・推進リーダーを置き従業員のサポートを行っています。

推進リーダーは、行動計画に基づき自ら率先して行動指針に則った行動をとるとともに、各職場内に全社行動指針を浸透させ、職場における相談窓口として法務部門とのパイプ役となることが期待されています。



■ コンプライアンス教育

全社行動指針の周知徹底、法令・各種規制の遵守のために各種研修・教育が法務本部により実施されています。

2008年度は、コンプライアンス推進リーダーに対する研修を東京、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡の各地でのべ10回（参加者103名）開催しました。

その他、新入社員研修（定期・中途）や新任管理職研修においても、コンプライアンス教育を継続実施しました。



本社での研修風景

■ 法務教育の実施

2008年度は、独占禁止法・下請法・インサイダー取引の防止をテーマに、法務教育を行い、営業社員を中心に全国でのべ10回開催し、約360名が受講しました。

■ 企業倫理ホットライン

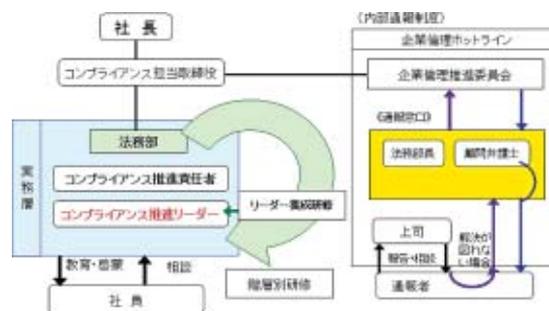
当社が開設している内部通報制度「企業倫理ホットライン」は公益通報者保護法に対応し、通報者が不利な取扱いを受けないよう適切な保護を行っています。

全社行動指針に反する行為や法令違反その他の不正行為に直面した場合、上司または上位の管理者に相談することを原則としますが、解決が困難であると考えられる場合は、企業倫理ホットラインを利用し、封書かe-mailにより通報窓口に通報することを周知しています。

通報は実名としますが、通報の秘密は厳守され、また通報したことにより通報者が不利益を被ることはありません。

2008年度は、通報受付の対象を子会社にも拡大しました。

コンプライアンス体制図





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

トッパン・フォームズ株式会社

〒105-8311 東京都港区東新橋1-7-3 TEL：03-6253-6000（ダイヤル案内）

お問い合わせ

ISO推進部 TEL：03-6253-5680

広報室 TEL：03-6253-5730

